

平成26年度事業の実績

1 大学改革の実施について

本学の進む方向性、経営目標を含めた中期計画（平成26～28年度）に着手しました。基本施策を、本学の総合力の向上（ビジョンの明確化、教育の質、研究力、学生支援、学生募集・広報、キャリア支援、地域連携、国際交流、職員的能力、システム・設備等環境整備、情報開示）、目標管理の徹底（PDCAの実践）、予算管理の高度化、コンプライアンス・リスク管理の充実などとし、各部門で取り組みました。

併せて、本学の建学の精神を伝えるメッセージとして「ここを育てる」を掲げ、学生・本学関係者、地域の方々に本学の理念や魅力を発信しました。

II 教育活動について

①建学の礎であるキリスト教の精神を伝えるために、「人間学」「キリスト教概論」の授業と、建学の精神への理解を深める静修会等の行事を行いました。

②人間学部心理コミュニケーション学科では、心理、英語コミュニケーション、現代コミュニケーションの3コースを設置しています。徹底した少人数教育、実践・体験を重視した教育、一年次からの体系的なキャリア教育とキャリア支援の運動、学習到達度を実感できる評価体制、地域や一般企業において必要とされる社会的スキルやマネジメント能力の養成を通して、教育目標の達成に努めました。

26年度は、特に「教育の質保証」として、各コースの育てる学生像を明確化し、カリキュラム編成、学位授与方針の厳格運用のため「学生に身につけさせたい7つの力」を設定しました。

③「清泉女子大学姉妹校留学制度」、「上智大学学生交流協定」、「長野県内大学単位互換制度」、「高等教育コンソーシアム信州」一県内8大学による遠隔授業）などを通して、多様な教育機会を提供しました。

〈短大〉

①建学の精神であるキリスト教的価値観を深め、それに基づく学園生活の実現のために、「人間学」「キリスト教概論」の授業を行うとともに、静修会で講師の講話を聴いて短大生の意義を

深く考え、わかちあいの機会を持ちました。

②幼児教育科：保育者養成教育の伝統を継承しつつ、人間性豊かで新しい時代にふさわしい保育者を養成するために、幼児教育、社会福祉、児童文化の3コースを設け、保育士資格、幼稚園教諭二種免許、児童厚生二級指導員及び自然体験活動指導者などの資格取得に必要なカリキュラムを設置しています。入学前教育を重点化し、基礎学力・日本語力を確保する講座、ピアノ技能力の早期把握と対策を行いました。また、保育者に必要なコミュニケーション力を育てるための初年次教育プログラムを実施しました。

③国際コミュニケーション科：豊かな国際的視野とコミュニケーション能力を養成できるような学生の興味や進路に合わせて英語・国際交流・地域情報・ビジネスの4コースを設け、関連する資格・検定の取得も強力で支援するカリキュラムを設定しています。清泉版社会人基礎力である「清泉スピリット5つの力」を育成する特別プログラムでは、フィールドワークなどの体験学習の充実、キャリア基礎力の育成を行いました。科全体でキャリア教育の研究を続け、27年度カリキュラム改訂の準備を行いました。

④学生の学習の振り返りの促進や教員の学生理解の向上を図るために、学生eレポートフォーオ「SJCマナバ」を導入し、運用を開始しました。

III 自己評価・FD活動について

〈大学〉自己評価活動におけるPDCAサイクルの充実を図りました。27年度に大学基準協会による認証評価を受けるために、報告書や資料の整備を行いました。

〈短大〉自己評価・相互評価活動、FD活動などを通してこれまでに培ってきた教育活動の成果をもとに短期大学基準協会による第三者評価を受け、「適格」の認定評価を得ました。

IV 国際交流について

国際交流センター主催で、協定校の漢陽女子大学（韓国）、国立高雄第一科技大学（台湾）、カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（米国）に学生を派遣し語学研修・文化研修を行いました。参加学生の事前事後研修の義務化、新たな助成金制度の運用、学習意欲向上の効果測定など、研修の充実を図りました。また、協定校の学生を本学に招致し国際交流活動を

行いました。

V 学生生活の支援について

学生生活アンケートにより満足度を確認し、改善策を検討し、学生との懇談会を行いました。

- ・通学支援として、学生専用駐車場の整備、最寄駅へスクールバスの朝6便夕方1便運行、JR長野駅からバス料金の一部助成などを行いました。
- ・就学の経済的負担を軽減するため、「ラファエラ・マリア スカラシップ」(成績優秀者)「緊急奨学金」(家計急変者)、保護者会による「泉会奨学金」「親泉会奨学金」など、多様な状況に応じた奨学金制度の充実を図りました。
- ・学生のメンタル面をサポートするため、学生相談室に、臨床心理士などの資格をもつ教員3名と非常勤職員1名を配置し相談にあたりました。

・自宅外通学者のため、一人暮らしの生活講座を実施し生活面・安全面に関して指導しました。

VI キャリア支援

キャリア系授業やインターシップ、ガイダンスなどを通して、学生が自己理解・職業理解を得る機会を設けました。実践的なセミナーや情報収集の場をタイムリーに提供して、就職・進学等を支援しました。

より広い意味での女性のキャリア支援の在り方、若者の早期離職問題や勤労観・職業観の希薄化等を踏まえた総合的なキャリア教育の在り方を見直し、キャリア支援センター未来プロジェクトを実施しました。

VII 教員の研究活動について

研究の質の向上と研究活動の全体的な活性化のため、研究成果出版助成、共同研究推進・発表会、海外及び国内の研究者との学術交流会などを行いました。研究成果については、「研究紀要」「Humanitas Catholica」「教育文化研究所NEWS LETTER」等で公表しています。

VIII 保護者、地域との連携について

①保護者等との連携：「泉会（保護者会）総会」及び「就職・進学支援のための保護者懇談会」の開催、「カレッジ通信」を通して、本学の様子をお知らせしています。卒業生については、新卒者同期会の開催、愛泉会（OG会）と共同で「ニュース・レター」の発行を行いました。

②地域との連携：地域連携センターを中心に地域や自治体との連携を積極的に進めるとともに、学部・学科がそれぞれの教育内容の特徴を生かして「地域に貢献できる人材育成」を目標に活動しました。

- ・長野市、千曲市及び信濃町との連携協定に基づき、学生と教職員が様々な地域活動を行いました。
- ・県内でのボランティア活動に加え、岩手県での震災ボランティアに学生23名が参加しました。
- ・本学教員を講師に、公開講座、授業開放講座、出張講座を開催しました。
- ・長野県（地）の拠点整備事業として、大学・地域連携事業補助金に3件が採択され、事業を実施しました。

IX 学生の募集・受け入れについて

・高校生・保護者・高校教諭・地域に対し、本学の教育内容を伝えるため、高校訪問、ガイダンス、大学見学会、出張講座等を行いました。受験生向けのオープンキャンパスは、学生スタッフを中心に運営し、本学の魅力を積極的に発信しました。

・多様な学生の入学者増を促進するために、社会人、同窓生子女、在学生・卒業生姉妹、清泉女学院短大から大学への編入学生等の入学金減免制度を実施しています。新たに授業料を全額免除する特別奨学金の入試を実施しました。

X 施設設備の維持・充実について

・体育館の天井張替（耐震化工事）を、私立学校施設整備費補助金を得て、夏期2か月間に渡り実施しました。

・聖心館を改築し、一階に保健室と学生相談室をマリア館から移設しました。

・図書館では学生と教職員の教育研究支援のために、文献・雑誌記事検索データベース、蔵書検索システムなどを充実させました。また、清泉女学院リポジトリに紀要等を掲載しました。

XI 財政

中期財務計画に沿って、財務管理を行っています。国庫及び地方自治体の補助金で八千七百万円を獲得しました。支出については、予算執行状況をタイムリーに把握できる体制の整備を行い、予算策定の高度化や経費削減を図りました。